

月刊

AMDA

国際協力

Journal

9

SEPTEMBER

2000.9.1

(VOL.23 No.9)





AMDAの願い
平和・健康・希望

～インターネットとうろう流し～

<http://pcserver2.sel.cs.hiroshima-cu.ac.jp/pm/>

AMDA
国際協力
Journal

2000
9月号

◇
CONTENTS

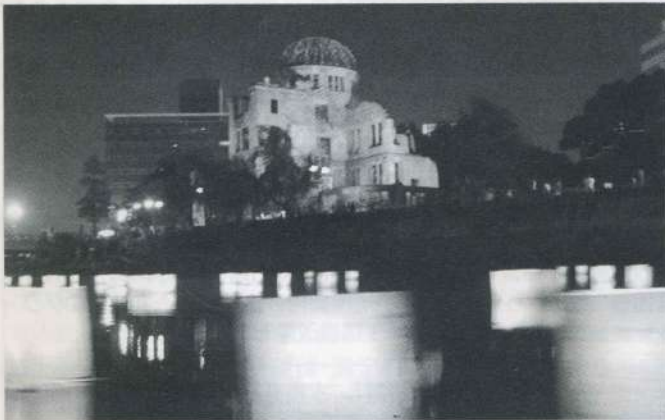


ホンジュラス
(収入向上支援：
お菓子作り講習会)



AMDAのプロジェクト特集

アジア	2
ヨーロッパ	13
アフリカ	14
中南米	16
人物紹介	19
AMDA 高校生会	20
AMDA 支部	22
寄付者一覧	23
事務局便り	24



表紙の写真

HIROSHIMA PEACE MESSAGE 2000
インターネットとうろう流し

インターネットで集めた平和へのメッセージを8月6日の原爆記念日に元安川に流すとともに世界へ向けでも発信しようとするインターネットとうろう流し初の試みは、約250通のメッセージを広島から世界へ流すことができたそうです。AMDAも「AMDAの願い：平和・健康・希望」を灯ろうに託しました。表紙および左頁のAMDAのとうろうの写真はインターネットとうろう流し実行委員会より提供していただきました。

AMDA 会員ネットワーク
参加者募集

AMDAでは目下ネットワークシステムの再構築を進めています。この一貫としてアドレスをお持ちの会員の皆様には下記ネットには是非ご参加下さるようご案内します。

1. <amda-jnet@amda.or.jp>
AMDA会員とのインターフェイス機能を目的とし、AMDAの動きをリアルタイムでお知らせできます。
(AMDA速報・イベント案内・人材募集)
2. <amda-trans@amda.or.jp>
翻訳依頼 (AMDA速報・AMDAホームページ等の英訳/和訳)

ご希望の方は <member@amda.or.jp> まで、住所、氏名、電話、FAXに併せお申込み下さい。 AMDA 会員情報局

*書き損じのハガキ、未使用の切手・ハガキ等がありましたらAMDAにお送り下さい。
*使用済テレホンカードは収集しておりません。
【送り先】岡山市櫛津310-1 AMDA 本部分行
お問い合わせは、TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959

国名	種別	プロジェクト	内容
インド	保健衛生	アユルベータ薬草園 98.4～	インド中部マハーラシュトラ州ナグプール郊外にて2つの薬草園を開設・管理。薬草園の土地開拓、柵囲い、電気の供給設備、水の確保など環境設備を行い、現地の伝統医療（アユルベータ）に必要な薬用植物の栽培に着手。保健教育、識字教育も実施予定。
カンボジア	教育・保健衛生	デイケアセンター （保育園） 93.4～	プノンベン市近郊コンボンスプー州で3才から6才の国内避難民や貧困者の子ども約50人を対象にした保育園を運営。識字教育、栄養給食配布等。
	医療	AMDA カンボジア・クリニック（ACC） 97.7～	首都プノンベン市内での診療活動。 内科、小児科、超音波診察、病理検査、簡易外科手術など。
	医療・保健衛生	タケオ州アングロカール行政区保健衛生改善 97.7～	アジア開発銀行（ADB）と協力し、全体的な保健衛生システム確立のため、現地医療関係者のトレーニングや医療施設での技術指導を実施。
	医療・保健衛生	巡回診療 99.10～	無医村のコミュニティに住む地雷被災者等の障害者に定期的に無料巡回診療を実施。巡回車輦内で小手術も実施。
ネパール	医療	ダマック市 AMDA 病院 92.5～	ブータン難民及びその周辺地域の人を対象に医療保健活動を実施。UNHCRから支援を受け、特に難民に対する診療・治療費を無料にしている。
	医療・人材育成	医療人材養成センター 96.4～	病院付属の施設・スタッフを中心に医療従事者養成学校を設置・運営。
	医療	AMDA ネパール子ども病院 96.11～	ネパール西南部に位置するプトフル市にネパール子どもと女性の病院を設立・運営。約50名のスタッフで小児外科、内科、産科、婦人科診療を実施、一日の外来患者は200名前後。1999年11月には分娩・急患サービス開始、2000年3月にはネパール政府から24時間体制病院として承認を受ける。
バングラデシュ	医療	ボートによる巡回移動診療 96～	外来診療、簡単な病理検査、外科、産婦人科が可能な中型の屋根並びに動力付きボートにより地域の村を定期的に巡回診療する。
	保健衛生	ガザリア・ターナ地域の診療所での無料診療 96～	診療所において毎週金曜日に無料診療を実施。地域ヘルスワーカーによる病気予防・治療。地域の中で、保健衛生教育を実施、下痢や栄養失調、母子健康保健改善のための普及活動を実施。
	人材育成 自立支援	AMDA Center for Training (ACT) 98.3～	各地で実施する救援活動や地域開発の専門家を育成する。特に、貧困者（女性中心）を対象に小規模貸付けによる収入向上プログラムを実施、劣悪な住環境や衛生環境改善を図る。
ミャンマー	保健衛生	浄水供給 96.1～	メツティラ市に浄水機を設置し、水教育等を通して飲料水の改良を行う。ミャンマー人水技術者の日本での研修受入れ予定。
	医療・保健衛生	地域医療 96.5～	栄養給食、保健衛生教育などを通じ衛生状態を改善し、AMDA診療所、巡回診療等診療活動もあわせて実施。
	緊急医療支援	病院改修 97.12～99.12	パゴ管区で水災にあった被災地において病院建設・改修や必須薬品の供給を実施。
	保健衛生	PHC 教育プログラム 97.12～	メツティラ地区郊外の地域にて小規模貸付、保健衛生向上のためのPHC教育プログラムを実施。
	保健衛生	PHC 教育 98.7～99.7	タージャビョーブエ地区郊外の4ヶ所の地域にて、PHC知識教育を中心として病院改修および井戸の設置を実施。
	医療	ミャンマー子ども病院 98.11～	国立病院に子ども病院を併設、病院の施設・設備の改善。相互の医療技術向上のため医師・看護婦等医療スタッフ日本・ミャンマー間交換研修。
	医療	医療専門家育成 00.4～	伝統医の育成を目的とし、人材養成センターの建設、基礎保健教育のためのマイクロクレジット専門家の育成を行う。

自立支援のための小規模融資プロジェクト

S. A. Razaak, Director

バングラデシュ AMDA 研修センター (ACT)

翻訳 藤井倭文子

プロジェクトの背景

1998年のはじめにAMDAはバングラデシュに二つの要素を含む計画を促進するためのAMDA研修センター(以下ACTと省略)を設立した。その一つ目はバングラデシュでABC (AMDAバンクコンプレックス)の概念にもとづく自立支援のためのモデル計画を実施する事。二つ目はACTを通じてAMDAバングラデシュに小規模融資に関する基礎訓練を提供しAMDAの現地スタッフの能力を培うためである。

ACTは最大の目標に到達するために可能な方法を見つけるため即座に行動を開始した。その間、ACTは国内及び国際スタッフのためにいかにしてグラミン銀行モデルをもとにした小規模融資を効率良く実施できるかについて、各自の知識を深めるために数回にわたり研修プログラムを実施した。

バングラデシュにおけるACT教育を通して、私達は自立支援の開発に到達するためのABCの概念にもとづいた小規模融資プログラムを実施する初めての計画を促進するためにためまぬ努力を続けている。また私達はABCの包括的な目的を満たすため医療(保健衛生指導)や教育(職業訓練・識字教育)などを組み込んだ“融資と自立支援プロジェクト”を開始した。

私達はABC及びバングラデシュを地盤とするACTでの最近の進展について活動報告をさせていただく。

A. AMDAバンクコンプレックス(ABC)

1996年にバングラデシュで催されたAMDAインターナショナルのビジネスミーティングでABCに関するダイナミックな構想が生まれた。その構想は非識字で貧しい人々や特に社会経済的に不利な立場にいる女性を対象とした医療、教育、及び貧困にあえぐコミュニティにおける増収のための広範

困にわたる社会開発計画である。この様な状況において、AMDAはABCを通して長期にわたる自立支援の計画に踏み込もうとしている。

1998年の始めにAMDAはACTバングラデシュを通してこの計画を実施するための基礎的な活動を開始した。

ABCプロジェクトのための準備方法

1) プロジェクト実施地の選択:

当初ACTが事務所を開設した地域に5ヶ所のプロジェクト実施地が選ばれた。このうち4ヶ所は農村地帯で1ヶ所は市街地にあるのスラム地区である。プログラムを実施する前に必要とされる全ての社会的調査を対象地域にて行なった。その調査は下記の社会経済的な状況を考慮している。

- 村落やスラム地区(特に市街地の場合)を示す各地域の地図
- 各地域の主な経済活動
- 社会的生産基盤及び地域住民の市場への接近のしやすさ
- 貧困層(最低収入)以下の生活をしている人々の概数
- 以前のバンクサービス又は他のNGOによる増収のためのプログラ

ムが有るか否か

- コミュニティによる自発的活動への参加

平成11年度のAMDA本部からの総合的なABC計画の資金源をもとにし、試験的プロジェクトとして5ヶ所の中から3ヶ所を選ぶ運びとなった。ABC概念にもとづく自立支援のための小規模融資プロジェクトに着手するために資金援助をして下さった日本の支援者の皆様に感謝している。

2) 会員名簿の作成

広範囲に及ぶ社会的な流れについて調べるために、3ヶ所の実施地域において増収のために融資を希望している人々の中から、ふさわしい会員を選ぶため、数回にわたり会合がもたれた。

会員としての基準はグラミンバンクをモデルにした。各予定地で大反響を呼び多数の人々(特に女性)による会員希望者があった事を強調したい。会員になるためには、小規模融資システムの基準に基づき融資を受ける前にAMDAに少なくとも3ヶ月、毎週1人あたりUS20セントの預金をする事から始める。言うまでもなく、各グループ5人のメンバーを自分達でつくり、そのグループが融資を受けるために必



プロジェクト実施のため様々な調査を行なう

要な条件を全て満たす事ができれば、各自 AMDA の会員になるために 50 セントの会費を納める。その期間中に 2000 年の 5 月迄に増収を目的とする融資を希望する 1020 人の会員 (204 グループ、1 グループ 5 人編成) が集まった。これらの会員は毎週定期的に開かれるミーティングに参加し、AMDA のプログラム企画者に週単位の預金を預ける。各メンバーは AMDA に 3-4 ヶ月の預金を完了すると、はじめて各自はそれぞれの所帯にあった自営業を始めるための融資を受ける資格ができる。

Hosneara Begum さんはバングラデシュのマンシガンジ地区のガザリアターナにあるホッサインディ村に住んでいる 35 歳の主婦である。彼女の夫 Md. Muslem Kahan さんは 42 歳で漁師をしている。5 人の子持ちで、土地その他の資産はない。この家族は親戚から借りた土地に竹で作った掘っ立て小屋に住んでいる。この夫婦は魚の収穫が少ないときは労務者として生計を立てている。彼は魚網を 1 枚持っているだけで、漁業に必要な十分な道具がないために収穫が少なく、漁船を借りる事がいつも困難だった。1999 年の初め、AMDA がこの地域に融資と自立のための支援プロジェクトを開始した時、夫人は 5 人組グループの一会員になった。その後彼女は 1 隻の小さな漁船と数枚の魚網を買うために約 US\$100 の融資を受ける事ができた。50 週に渡る分割払いと利息の第 1 回目の融資を返済後、彼女は 2000 年 4 月に約 US\$160 の 2 度目の融資を受けた。

その間に、AMDA から融資を投資することにより、彼等の収入は 50% 増収した。現在の所彼等の月額収入は約 US\$80-100 である。この夫婦は現在 1 隻の漁船、3 枚の魚網、及び小さな家庭用養鶏場を持っている。5 人の子どものうち、3 人を学校へ行かせている。彼

等の生活は少しずつ改善されている。

バングラデシュの AMDA 融資プロジェクトに参加しているその他のメンバー同様、彼女は近い将来貧困ラインを乗り越えることができると望んでいる。

3) 預金者の獲得

小規模融資貸付の中で預金者の獲得が最も重要な事である。これは会員と融資団体の間のよりよい関係をつくる。他方では、預金に対する態度は収入源と自信の向上につながる。このように AMDA は会員に彼等自身の利益のために少しでも多くの預金をする事を強調し小規模融資の開始に踏み切った。預金は最小限 1 年の満期をへて、5% の利息を受け取る事ができる。

2000 年 5 月迄に、私達は融資資格を持つ会員から US\$12,832 の預金を集める事ができた。これらの預金は借り手会員のために使われている。毎週私達は預金を集め、同時に新しい借り手を見つけている。このプログラムの有利な点は、資格のある会員を増やすだけこれら会員から預金を集める事ができ、その預金から新しい借り手を生み出す事ができる。

4) 融資の実施

1999 年の初めから、私達は各有資格会員に着実に融資を実施している。当初、私達は会員のいろんな分野における投資を考慮して、第 1 回貸し付け金として 1 会員 US\$100 を上限とした融資をする事を対象とした。通常 1 会員は 5 回融資を受ける事ができる。融資を受けた金額は 50 週間以内に毎週定額の分割払いで返済されなければいけない。各会員は 1 つの返済が終了後、次の融資を申請する事ができる。

貸し付けシステムにもとづき、貸し付け金の支払時にグループ税として 5% を各借り手の融資額 (US\$100) に課せる。この金額は AMDA の会員になってから 5 年後に返済される事になっている。5 年以前に脱会するならば、グループ税は返済されない。グループ税は融資支払のための安心料である。

融資が始まってから約 68 週間が過ぎた。その間に、借り手は第 1 回目の融資を 50 週以内に返済した。借り手は各自の仕事の向上を目の当たりにし、更なる投資のために 2 回目の融資を受けようとし、現在彼等に 2 回目の融資をおこなっている。2 回目の上限額は

詳細	期間 (1999-2000)	計算書の項目	金額 (US\$)	備考
一般会員数	1,500 (全会員は週単位の預金をしていない)	入会金の集金	535	有資格会員の会費は回転資金として使用
有資格会員数	1,020 (全会員は週単位の預金者)	預金獲得	12,832	有資格会員の預金は回転資金として使用
グループ数	204 (1 グループ 5 人の有資格会員)	分割払込金の集金	49,394	借り手からの各週の返済金は回転資金として使用
センター数	51 (4 グループで 1 センター)	グループ税の集金	4,747	融資金額 (払い戻し可能) に課せられる 5% の税金は回転資金として使用
借り手会員数 (1 回目の融資)	778 (全員 1 回目の融資を受けている)	サービス料の集金	4,362	融資金額に課せられる 10% の利子は運転資金として使用
借り手会員数 (2 回目の融資)	110 (全員 2 回目の融資を受けた)	借り手会員総数	888 (既に融資を受けている)	有資格会員 1,020 人中。

詳細	金額 (US\$)	備考	資本金	金額
融資の実施 (1 回目)	76,560	回転資金	1. AMDA 本部からの助成金	25,873
融資の実施 (2 回目)	18,380	回転資金	2. AMDA 本部からの融資 (1+2)	22,800
融資の実施総額 (1+2)	94,940	未払い融資	総資本金 (1+ 2)	48,673

一人あたり US\$200 である。

5) 返済

借り手会員は50回の分割払いで、毎週返済しなければいけない。言い換えれば、借り手は融資金額を利子と共に50週間以内に返済しなければいけない。毎週各返済金に年間一律10%のサービス料が加算される。現在返済率は100%である。

前頁(上)の表は2000年5月迄の現場におけるABCの現状である。

前頁(下)の表は2000年5月迄の現場における回転資金の未払い融資である。

前頁表は融資支払総額が総資金の約2倍になったことを示している。これはABCが1年間に回転小規模融資で成し遂げた実績である。

B. AMDA 研修センター (ACT)

ACTは1998年3月始めから正式に活動を開始した。最初は1998年3月最後の週にAMDAフィリピンからの1人の会員のためにグラミンバンクモデルについてオリエンテーションプログラムが実施された。そして1年少々の間に既述の成績を上げた。

その間にACTは各プロジェクト実施地においてその地域のボランティアを募集し訓練するためのネットワークを広げる為に5ヶ所の様々な場所に地域事務所を開設した。これらのボランティアは必要に応じAMDAのプログラムを積極的に支援するよう期待されている。

研修プログラムには下記の項目が含まれている：

a) 緊急時の対応：個人間のコミュニケーションを通して一般に認識させるための大規模なプログラム

b) 如何なる緊急事態にも直面できるボランティア活動を開発

c) ABCプロジェクトのために小規模融資に関する仕組みについてボランティアを訓練

d) スタッフメンバーのため、総合的なプロジェクト管理に関する内部研修を実施

ACTはインターナショナルスタッフ (AMDAインターナショナルのアジ

4. 青葉かおる、AMDAザンビアプロジェクト、ザンビア代表 (期間：1999年1月13～19日)

5. Ms. Joyce Z. Daka, AMDAザンビアプロジェクト、プロジェクト調整員 (期間：1999年3月17～25日)

6. Ms. Nang Seng AYE, AMDAミャンマープロジェクト、プロジェクトマネージャー (期間：2000年4月23～28日)



週に一度AMDA研修センターに集い、集配金を受け取るメンバー達

ACTは世界のどこからでもバングラデシュで研修ツアーを受け入れる準備ができています。

主な方針は多様な文化的背景を持っている人々の交換プログラムの開発やバングラデシュにおける最近の社会経済的基盤の開発課程においてNGOの紹介をする。この間、1998年8月の中旬にACTは2人の日本人のために研修ツアーを1週間実施した。このプログラムは日本のエフサントーリストの仲介を得

て実施された。ACTは今後もっと多くの研修ツアーを受け入れるために積極的に準備を整えるための努力をしている。

ア多国籍医師団)のために、グラミン銀行モデルをもとにした意見交換や現場でのオリエンテーションプログラムを実施している。現在迄にACTはアジア多国籍医師団からの6人の研修生に様々なスケジュールで研修を実施した。

1. 藤野康之、AMDAルワンダプロジェクト、プロジェクト調整員 (期間：1998年6月22～25日)

2. 大森佳世、AMDAミャンマープロジェクト、ミャンマー代表 (期間：1998年7月8～19日)

3. Mr. Femald M. CHISANGA, AMDAザンビアプロジェクト、プロジェクト調整員 (期間：1998年12月23日～1999年1月27日)

終わりに

バングラデシュのABCプロジェクトは首尾よくスタートした。今後はこのプロジェクトを長期にわたり自立できる状態に持続できるよう努力することである。さもなくば私達の努力は無駄に終わるからである。バングラデシュは小規模融資に期待できる有利な土地柄である。バングラデシュにこのようなプロジェクトを実施しようと企画して下さったAMDAインターナショナルに感謝し、このプログラムの受益者が受ける多大な恩恵のために更なる支援をお願いしたい。

ガザリヤ郡でのマイクロクレジット・プログラム

(AMDA Bank Complex in Bangladesh)

医師 平岡 宏太良



川で遊ぶ子どもたち

私は学生時代から NGO の国際保健医療協力活動に興味があって、6月より AMDA のインターン生として Bangladesh に来ている。

AMDA-Bangladesh はガザリヤ郡での、グラミンバンクをモデルとしたマイクロクレジット（低所得家族に対する低金利融資）プログラムを主な活動としている。6月29日より7月9日にかけて私はガザリヤ郡に滞在して現地の若いスタッフと寝食をともにし、彼らの集配金活動に同行して実際に融資を受けているメンバーの数人にインタビューを行った。

ガザリヤはダッカからバスで2時間ほどのところにある農村で、住民の大半が農業または河川漁業に従事しており、もはや日本ではなかなか見ることが出来なくなった自然豊かな農村風景を呈している。村自体が川の中に浮かぶ島のようにあり、また村内も幾多の小川で分断されているため、船が交通には不可欠である。川はまた、人々の風呂場であり、台所であり、便所であり、子供の遊び場でもある。川の水は粘土、プランクトンのためそれほど透明度は高くないが、近くに工業地帯がなく水量が豊富なこと、また人々もごみの出ないシンプルな生活を送っていることにより案外きれいである。（私も実際川で体を洗ったり泳いだりした。）

人々の生活はいたってシンプルかつナチュラルで、娯楽としてはトランプか、テレビのある家庭ではそれぐらい

しかない。子どもは川で泳いだり、クリケットという日本ではなじみのない、野球に似たスポーツをしたりして遊んでいる。米、野菜、牛肉、鶏、魚などの食料は豊富で比較的安く、貧しくても食料飢饉の心配はなさそうである。しかし生活の向上を望む声は強く、融資を要求する主婦を主とするメンバー達の対応に、AMDA のスタッフが窮窮としている場面がよくみうけられた。

マイクロクレジットがいかにもメンバー達の収入、ひいては生活の向上に役立っているかということの実例を以下に示す。

ケース1

ホッシンジ村のサヒダさんは35歳の主婦で、夫と3人の子供と暮らしている。夫は40歳で、稲作業に従事しており、収入は1ヶ月あたり3,000タカ（約7,500円。1タカ≒2.5円）である。これが彼女が融資を受ける前のこの家族の全収入であったが、99年の5月に第1回目の融資として5,000タカ（約13,000円）を受け、また親戚から7,000タカの借金をして、合わせて12,000タカで乳牛を1頭購入した。現在その牛乳を売ることにより月々約2,000タカの収入があり、夫の収入と合わせてこの家族の全収入は月々5,000タカとなった。収入の増加によりこの家族が食料を買うために使える予算が、融資以前は月々3,000タカであったのが、現在は4,000タカまで上昇した。また乳牛が子供を産んで現在2頭の子牛も飼っており、収入が増加したため4頭のヤギを買い、以前はなかったトイレを設置し、家の修理もすることができた。2000年6月に2回目の融資として8,000タカを受け、彼女はそれを親戚からの借金の返済にあてた。

ケース2

パロワガンディ村のハリマ・アクタさんは27歳の主婦で、4歳の息子と彼女の両親、3人の妹と1人の弟と暮らしている。彼女の夫はサウジアラビアに出稼ぎに行っているが、向こうで職が見つからず現在仕送りはない。65歳の父親は渡船業を営んでおり、月々約1,000タカの収入がある。生活は苦しく、2、3ヶ月に一度、約2週間分の食料の配給を政府より受けるがむろんそれでは足りない。彼女は今年の4月に5,000タカの融資を受け、3,500タカのミシンを買った。そのミシンにより、



ミシンで内職をするハリマ・アクタさん

シャツやこちらの女性の伝統衣装であるサリーを縫製する内職を行い、月々700タカの収入を得ることができるようになった。1、2ヶ月後には月々1,000タカ程度の収入が得られる見込みである。収入が増加したため、彼女の家族が食料にあてる予算も若干増すことができ、また2羽のにわとりと10羽のあひるを飼うことができるようになった。また現在560タカの預金がABCにある。

ケース3

パロワガンディ村のセリナさんは25歳の主婦で、30歳の夫と4歳、2歳の二人の息子、18歳の未婚の妹と暮らしている。彼女の夫はトラックの運転手で、月々2,000タカの収入があり、時々政府からの食料の配給を受けてなんとか暮らしていた。今年3月に5,000タ

カの融資を受け、彼女は3,000タカのミシンを買った。現在そのミシンを使った内職により月々700タカの収入が得られるようになった。現在3,000タカの預金がABCにあり、彼女は家の修理を考えている。

マイクロクレジットは低所得者の収入ひいては生活の向上に確実に役立っており、更なる規模の拡大、融資額の増額が促進されるべきであるが、いくつか課題も考えられた。

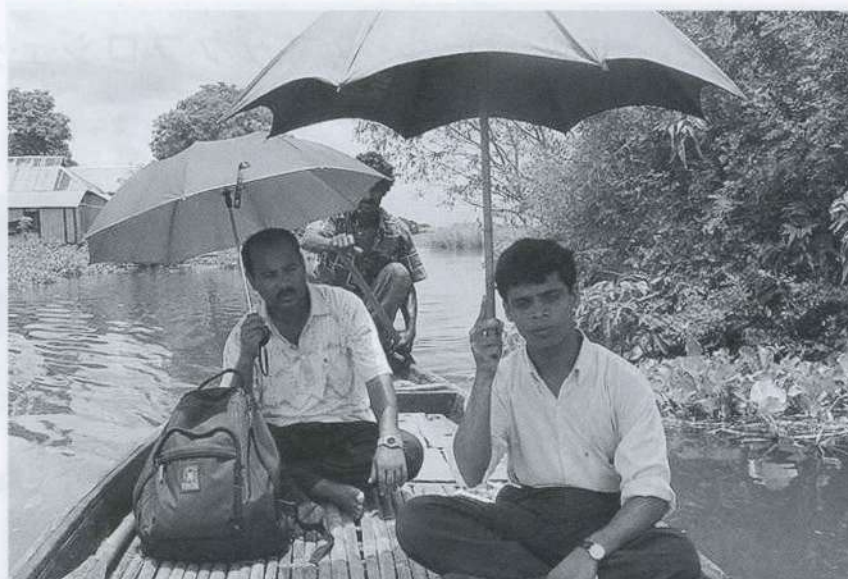
ひとつはマイクロクレジットの対象が少額ながらも定期的な預金および融資の返済ができる家族であり、母子家庭のような安定した収入を望めない最低所得家族は対象とはならないことである。実際プログラムのメンバーではないが、困窮する現地のAMDAセンターに訴え出てくる家族もあった。それらの人々にもインタビューを行ったので以下に示す。

ケース1

ナジャール村のAMDAセンターに祖父母と6歳と3歳の孫より成る家族がやってきた。子供の母親は病気で1年前になくなり、父親は他の女性と結婚して8ヶ月前に逃げてしまった。この家族の家計を支えているのは70歳の祖父で、彼は他の人の農作業を手伝っているが、乾期は仕事がなく、年間7,200タカの収入しかない。近所の人の助けを借りながらなんとか暮らしている。もしある程度のまとまった金があれば、彼はボートと漁業用の網を買うことにより、乾期に漁業を行って収入が得られるようにしたいと考えている。必要な予算は約5,000タカである。それにより年間12,000タカの収入増しが望めるという。

ケース2

ホッシンジ村のジャミロンさんは推定50歳(正確に自分の年齢をいえない女性が多かった。)の主婦で、夫は10年前に亡くなっている。17歳、15歳の二人の娘と9歳の息子と暮らしている。娘達は学校に行ったことがないが、息子は現在小学校に通っている。彼女は家政婦をすることにより月々500タカの収入を得ている。他2、3ヶ月に1度政府より約2週間分の食料の配給を受けている。また彼女は以前われわれのプログラムのメンバーであったが、預金を続けることができず、や



ボートに乗って集配金に行くAMDA現地スタッフ達

めざるをえなかった。彼女は自分の家に小さな雑貨屋を開きたいと考えており、そのために必要な費用は5,000タカである。その雑貨屋により月々約1,000タカの収入が望めるという。

以上のような非常に苦しい状況に置かれている家族がこの地域にどの程度いるのかということとははっきりとわからないが、おそらく潜在的にかなりいるのではないかと思われる。このような家族を日本では生活保護や老人年金などにより政府がサポートするが、バングラデシュでは政府の力が弱くそのようなことは望めない。またマイクロクレジット・プログラムに加入させることは融資の返済の確実性がなく非常にリスクで、プログラムの破綻につながりかねない。マイクロクレジットとは違った援助方法をこのような家族に対しては採らなければならないだろう。

また女性の働き口が非常に少ないということが母子家庭においてはネックとなっている。女性はあまり家の外に出ることが少なく、買い物も男がする。店の売り手も全て男である。また、融資を受けるメンバーの大半は主婦であるが、夫の仕事に対して投資するかもしれないが家畜を買うなどのためにローンを使う。他は内職のためのミシンを買うぐらいである。女性に働く機会を与えるため、来年4月に開設予定のAMDA Vocational Training Centerにて刺繍や縫製のコースや、電気機器を使った家具の製造のコースなどを企画している。

もうひとつの課題はマイクロクレジットにより住民の収入が上がると、購買力も上がり、ひいてはゴミの問題、環境汚染の問題も出てくるのではないかとある。現在は収入の大半が食料にあてがわれており、また野菜のくずなどは鶏、牛などの家畜が食べてくれるためあまりゴミが出ないが、ゴミ回収などのシステムがないため人々はタバコの空き箱、ビニール袋をポイポイと家の前や道端に捨てている。ゴミ処理問題が解決せず人々のゴミに対する意識も変わらないまま、ゴミが増えるとなると環境汚染の問題が出てくるのではないかと思われる。

以上のような課題を踏まえた上でAMDAとしては、マイクロクレジットにより低所得者の生活向上を図るとともに、マイクロクレジットの対象とならないような最低所得者の生活保障、ゴミ問題に対する対策および教育を行っていく必要があるのではないかと考えられた。またガザリヤには医療施設としては政府管轄のクリニックが1つあるだけで、それだけで7万人の住民の医療サービスをカバーできるとは思われない。モーターボートを使った巡回診療などがこの川の多い地域には必要ではないかと思われた。ガザリヤが自然と調和した美しい農村として発展していくことを私は期待している。

最後にガザリヤ滞在中に大変お世話になったShahjalal氏、Arif氏をはじめとするAMDAの現地スタッフのみなさんに感謝する。

ネパール・ダマックプロジェクト概要

プロジェクト推進局 鈴木 俊介

1. 背景

ダマック市における本格的な医療事業は、1992年に開始された。その数年前より、隣国ブータンにおいて民主化弾圧を受けたネパール系住民が、ネパール東部地域へ避難し難民となった。AMDAはブータンネパール系難民の救援プロジェクトとして、難民キャンプが集まるダマック市に第2次医療センターを設置し、彼らの診療にあたってきた。さらに1995年からは、国連高等難民弁務官（UNHCR）からの正式な委託業務として、難民に対する医療サービスを提供してきている。今なおダマック市周辺には約10万人の難民が避難生活を行なっている。



AMDA 病院全景

この医療センターは、1995年以降「AMDA病院」と名称を変え、またネパール政府からも総合医療施設としての認可を受け、難民に限らず、ダマック市周辺のネパール住民に対しても総合的な医療サービスを提供している。現在は、7対3の比率で一般住民の来院が難民患者数を上回っている。

また、ネパール僻地における保健従事者の不足に対応するため、日本の外務省が提供する草の根無償資金を活用させていただき、1996年、保健人材養成センターを設置し、これまでに113名の准看護婦、79名の保健婦及び保健士、さらに58名の臨床検査助手が、それぞれのコースを修了し、現在も95名の学生が学んでいる。

一方、1999年にはUSAID（アメリカ海外援助庁）及びFHI（ファミリー・ヘルス・インターナショナル）の支援を受け、増加しつつあるエイズ予防のための事業を立上げた。現在、ダマック周辺の3つの郡において、特に社会的弱者（売春婦や売春顧客を含む）に対するエイズ教育を実施したり、コンドーム使用を呼びかけている。



AMDA 病院内で講師（右）から指導を受ける看護婦/士コースの学生

2. AMDA 病院

もともとブータン難民を診療するための施設であり、現在もキャンプ内の一次診療所（応急処置ができる程度の施設）で手に負えない患者が、昼夜を問わず運ばれてくる。特に救急患者や手術患者が多くなり、病棟に患者があふれるようになるとまさに野戦病院のようである。しかし、全体的に見るとすでに地元根ざした病院に脱皮した感があり、外来患者だけを見ると、約80%の患者は地元ネパール人である。1996年から1999年の4年間にかけてAMDA病院の外来を訪れた患者数は、約12万人にのぼる。そして救急患者数は4万人を超える。ちなみ

に、急患の難民と地元住民の比率は4対6である。

3. 保健人材養成センター (Health Manpower Development Center)

創立は1996年である。以下略歴を記す。

1995

- 6月 草の根無償資金受理
- 8月 センター建設開始

1996

- 2月 センター完成、そして「ネパール技術教育及び職業訓練に関する評議会」より、人材育成センターとしての認可を得る。通称「AMDA病院附属医療養成学校」
- 5月 准看護婦及び臨床検査助手コースの開始(生徒数はそれぞれ39と20)

	Course	Academic Period	No. of Students Applied	No. of Students Admitted	No. of Students Completed
96 Admission	CMA		n.a.		
	ANM	96.5 ~ 98.4	121	39	38
	LAB	96.5 ~ 97.4	?	20	20
97 Admission	CMA	97.8 ~ 98.10	119	40	40
	ANM	97.8 ~ 99.1	57	38	38
	LAB	97.8 ~ 98.7	22	19	18
98 Admission	CMA	98.8 ~ 99.10	68	40	39
	ANM	98.8 ~ 00.1	48	38	37
	LAB	98.8 ~ 99.7	62	20	20
99 Admission	CMA	99.8 ~ 00.10	44	32	Program ongoing
	ANM	99.8 ~ 01.1	52	40	
	LAB	99.8 ~ 00.7	34	23	

1997

5月 臨床検査助手生徒が12ヶ月コースを修了。

8月 保健婦/士養成コースも含めて、新学期開始。生徒数は、それぞれ38、19、そして40（保健婦/士養成コース）

1998

7月 AMDA 神奈川が、奨学金制度を支援、合計7名が授与。

2000

3月 AMDA 神奈川支部が、図書館の設立を支援、書籍を購入し開館した。



AMDА 神奈川支部支援の「AMDА 病院図書館」—神奈川ライブラリー—

4. エイズ予防プロジェクト

プロジェクトの正式名称を、「Behavior Change Intervention for the Prevention and Control of HIV/AIDS/STD among the Population at High Risk in Jhapa, Morang and Sunsari Districts」と言い、エイズや性的感染症に関する教育及び広報活動を通じ、そうした疾患の感染率を減少させようというのが目的である。AMDА 病院が位置するジャパ郡はインドとの国境に陸続きで接しており、自由な行き来が認められていることから、交易に関わる様々な人や車輛の出入りがある。また、隣接するモラン郡やサンサリ郡もカトマンズへ抜ける幹線道路が貫いているため、こうした地域においては、性を対象としたビジネスも社会の裏側で栄えてくる。当プロジェクトは、そうしたビジネスのサービスを提供する側と受け取る側に狙いを定め、不特定多数の人を媒介として感染が広まらぬよう、特にコンドームの使用を奨励している。さらに、地元の有力者、工場労働者、学生、地域団体、その他様々なグループへの働きかけを通じて、啓蒙活動を継続している。当プロジェクトは1999年の秋口に開始され、2年間の契約を結んでいる。その間の予算は約2千万円、現在27名のスタッフが活躍している。



エイズ予防プロジェクトスタッフ

5. 識字教育（カトマンズ）

AMDА ネパールのカトマンズ事務所では、その一室を開放し、地域住民（特に、貧しく学校へ通えない子供達）を対象に、週5日朝夕、無料の識字教育を行なっている。

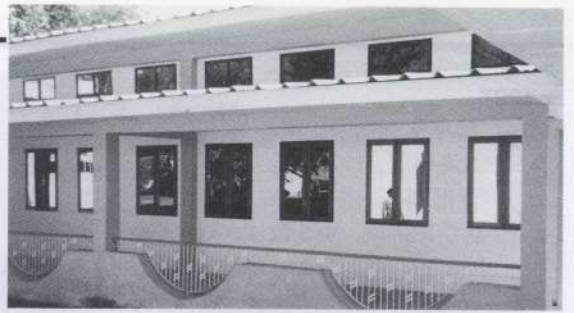


識字教育クラスを訪問した木下恵美看護婦

メッセージ from ミャンマー
「心に染みる美しい思い出」

ミャンマー子ども病院小児科医 Dr. キンタンシー
(裏表紙: ミャンマー子ども病院にて診察中の筆者)

翻訳 大森佳世、AMDA ミャンマー



AMDA ミャンマー子ども病院

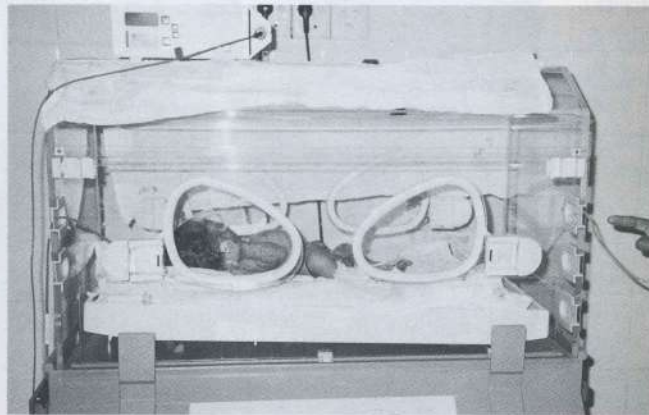
心を込めて、皆さんにお伝えしなければなりません。私が日本で過ごした3ヶ月と3日という日々は、私の人生において、最も心に染みる思い出となりました。それは永久に美しく、そして喜びに満ちたものです。日本での滞在を終えてから今日までほとんど毎日のように、会った人たち、目にした美しい風景、楽しく過ごしたすばらしい場所などを、忘れられない日本として、なつかしく思い出しています。

私はJICA 研修生として、2000年1月13日から4月16日まで、岡山で過ごしました。この研修は特に、ミャンマー国メッティーラに開院したミャンマー子ども病院をより充実したものにするために、AMDAの支援によって実現しました。まずAMDAの本部へ行き、菅波代表と挨拶をしました。数ヶ月前に一度、彼とはミャンマーでお会いしていました。ですからその時から、彼の穏やかな人柄と、世界中に広がるAMDAのプロジェクトを遂行する責任者としての能力を、身を持って感じていました。私は幸運にも、彼とAMDAミャンマーの将来に渡るプロジェクトの構想について、議論することができました。それに加えて、AMDAの各局の代表からも、様々な地域で遂行されているAMDAのプロジェクトについて、1つずつ丁寧に説明を受けることができたので、さらに夢が広がりました。

そしていよいよ小児科医として、岡山済生会総合病院で1ヶ月間、国立岡山病院で2ヶ月間、主に小児病棟において研修を受けました。そこで、井上先生(岡山済生会総合病院)、市場先生(国立岡山病院)、山内先生(国立岡山病院)など、多くの有名な小児科医と出会うことができました。この先生方はみんな優しく私を指導してくれ、子どもたちの様々な疾病について、非常

に有効な技術を説明して下さいました。どちらの病院もとてもあたたかい雰囲気、すべての医者、看護婦などスタッフが友好的に迎え入れてくれたおかげで、私はまるで自分の病院にいるような感じでした。

研修中、私はミャンマーでは一般的でない精神的な疾患を持つ子どもや、川崎病の子どもなど、様々な疾病を目にすることができました。またミャンマーでもよく目にする病気で、初期の治療によって完治させていく手法も



保育器によりまた1人子どもの命を救うことができた

学ぶことができました。岡山済生会総合病院の集中治療室や手術室、旭川センターは非常に有意義な経験でもありました。また、子どもたちの健康診断のために川上町などの村を訪れたことも、エキサイティングな出来事でした。国立岡山病院のよく整備された新生児の集中治療室で仕事をし、優秀な新生児専門医や看護婦たちと大半の時間を過ごした結果、将来は私も新生児のことを扱う医者になりたいと強く思うようになりました。

4月16日に関西空港からミャンマーへ戻ってきました。旅立つ前、私は幸運にも山内先生の紹介でミノルタの方と、また大阪の秋田看護婦に会うことができました。貴重な時間を私にさいって下さったおかげで、大阪や京都の観光もできました。あたたかい日本人々にたくさん触れて、ミャンマーへ

戻る前、私は日本で取得した知識によって、私たちミャンマーの小児医療を少しでも改善していこうという強い強い思いが湧き上がってきました。3ヶ月という期間は私が学びたかったすべてを取得するには、とても短いように思います。しかしながら、できる限りの力を出し切りました。私は元の病院(ミャンマー子ども病院)へ戻ってから、メッティーラの私の患者である子どもたちのために、自分が発揮できる全能力を捧げています。以前よりも、その想いは募るばかりです。こうして日本から戻った今、より多くの子どもたちを助けることができていると、確信しています。

最近、私は1人で1ヶ月に180~230人の患者をみるため、非常に忙しくなっています。この数字は、戻る前の2倍です。この時期、最もよく目にする困った病気は、デング熱です。医療スタッフの不足により、私たちは毎日忙しく仕事に追われています。しかしながら私たちはみんな、子どもたちの命を救うことができ、本当にうれしく幸せです。今、日本政府の支援によって日本から持参していただいた「保育器」や「光線治療ユニット」などの医療器材により、設備も向上しています。さらに、交換プログラムによって日本から来た医師や看護婦などの医療スタッフによって、実践的かつ実用的な治療が行えたり、研修指導をしていただきました。これらの医療スタッフによって開催される研修が継続的に行えたら、ミャンマーにいてもより進んだ医療情報を得て、私たちの知識もさらに改善していくことでしょう。

最後に、AMDAとJICA、岡山済生会総合病院、国立岡山病院で私を派遣、受け入れるためにかかわって下さったすべての関係者の方々に、お礼を申し上げます。またAMDAを通じて私たち

を助けて下さっている、日本のお父さんである新谷さんにも、心からお礼を申し上げたいです。皆さんが私の受入れに協力して下さったことばかりでなく、ミャンマーの子どもたちのことを非常に心配して下さい、何とか助けてあげようと思って行動して下さい、ということに、ミャンマーの小児科医を代表して、心から感謝申し上げます。

すべての皆さんに約束します。私はミャンマーの子どもたちのために、いつもベストを尽くします。ミャンマー子ども病院は、日本からミャンマーに贈って下さった貴重なプレゼントです

から、これからも全力で、この病院を守り、改善していくつもりです。そしてまた、日本の子どもたちも、ますます健康で幸福に生きていけることを願っています。もう一度またいつか、皆さんにお会いしたいと思います。

心の底から、
「ARIGATO—
GOZAIMASU!!」
さようなら。いつか、ミャンマーへもお越し下さいね。



元気に退院する双児を抱く両親と筆者（左端）

メッティーラを訪れて

看護婦 前原 和美

私は縁あってAMDAでお世話になり、ミャンマーを訪れました。ちょうど現地は雨季で、1日1回は雨が降るためか適度に涼しく、猛暑の日本を忘れるほどでした。短期の訪問であったため、わずか1日ではありましたが、メッティーラでのAMDAの活動を見学させていただきました。

まず、朝は巡回診療から1日が始まります。私が訪れた日は、マヂズという村での診療です。1台の車にスタッフ7人と大きな薬箱を乗せ現地へ向かうと、子供から大人まですでにたくさんの人が並んで待っていました。高血圧、結核やマラリア、皮膚病、化膿など様々な疾患がありましたが、診療はてきぱきと進んでいきます。と同時に、診療所脇の建物では50人ほどの子供たちが栄養給食を受けていました。昼過ぎには診療は終了しオフィスに帰り、昼食後AMDAクリニックでの午後からの診療開始です。ここでも80人程度の患者さんが診療を受けていました。4時頃には1日の診療の終了です。スタッフの皆さんには、適度な疲れと同時に、1日の仕事をやり終えた満足感も感じられました。

また、子ども病院へは昼前頃訪問しましたが、まだ外来診療で騒然としていました。スタッフ不足と電圧の関係上、ICU、NICUは稼動していない状態であった事は残念でしたが、地域の小児医療を支え、リーダーシップを取っていく重要な存在であることは確かでした。

今回、メッティーラを訪れ、病める人・困っている人の支えになりたいという共通した気持ちがあれば、多くの人々を助けていけることを実感しました。貴重な体験をさせていただくことができ感謝しています。



マヂズ村にて（栄養給食実施のための体重測定）



ミャンマー子ども病院
（子どもたちを見守るスタッフの笑顔は生き生きと素敵でした）

宗教タブー、ミャンマー版

AMDA ミャンマー会計・秘書業務担当 ケイカウンアウン

翻訳 藤井倭文子

ミャンマーの全仏教徒は各家庭に仏陀像を飾っている。彼等は毎日仏陀像に手をあわせ忠誠を誓っている。家族の一員は毎朝いの一番に施し食、清水、香り高い花を供え、夜には就寝前線香や明かりをつけて祈っている。

人々は特別な場合僧侶に施し食、清水やジュース等何かを提供するが、僧侶は寄付者から献金のみ受け付ける事ができ、寄付金は僧侶の助手が修道院で使用するために保管している。ある修道院では、修道院長や年老いた僧侶を除いて、毎朝托鉢に出ている。

各僧侶は正しい生き方をするために平信徒に定められた8つの戒律を遵守し、常に生きとし生けるものに対し慈愛を持って接しなければいけない。多

くの人の中には満月や、新月、又仏陀の特別な日々には下記8つの戒律を遵守している。

8つの戒律とは：

1. 全ての命あるものを殺さない。
2. 人の物を盗まない。
3. 悪事を行なわない。
4. 嘘をつかない。
5. アルコール飲料を飲まない。
6. 正午から次の明け方まで食事をとらない。
7. 踊り、歌、音楽の演奏や観覧は禁じられ、自分を美しく見せるために飾らない。
8. 1.5フィート（約46センチ）以上、平坦で安易な場所に滞在したり、就寝してはいけない。

人々は常に仏陀、仏法、仏教に関する修道院の3つのジェム（宝石）を心に留めて崇拝している。又3つの宝石と同様に両親や教育者を尊敬している。

殆どの僧侶や一般人の中には仏陀のレント期間中野菜食のみとっている。ある人は一生を通して4本足の動物の肉類を口にしない。又、誕生日には肉類を食べない人もいる。

ミャンマー仏教徒の殆ど全ての男性は5歳から20歳の間に見習い僧として奉公する。これは少年を修道院で仏教徒としての指令について伝授する為である。若者や子供達は特別な満月の日やミャンマーのお正月には僧侶、両親、親類、教育者を表敬訪問する。



AMDA新スタッフ紹介①

伴場 賢一

1) 自己紹介

皆さん、はじめまして。

この7月より、AMDAの一員として元気に楽しく働いております。出身地は東北・福島です。性格的には、楽道家でお調子者・典型的なB型と言った所でしょうか。大学を卒業してから、6年3ヶ月ほど地元でまじめな(?)銀行員として働いておりました。

学生時代に澤木耕太郎の「深夜特急」という本に出会って海外旅行をはじめ、色々な国を廻って様々な人に出会い・色々な経験をして、客観的に見て私達よりも貧しい生活をしている人達が今の日本人の生活よりも自由で幸せそうに見え、抽象的ですが「人間の幸せって」ものが何であるか探すために、自分自身が今までの社会経験を生かしながら積極的にその人達に関わりを持つように、NGOにそしてAMDAに転職したいと思いました。

今後は、本部で語学を含めいろいろ

なことを学びながら、フィールドにも出て特にマイクロ・クレジットに関りたいと思っています。

2) 今の仕事

コミュニティ・サービス・デビジョンのプログラム・オフィサーとして勤務しています。

アジア地区のカンボジア・バングラデシュを中心にネパール・インドを担当しています。

各国で行われているプロジェクトの調整業務・現地の事務所との連絡・派遣希望者の対応が主な仕事です。

今現在は、AMDA高校生会と共にカンボジアにあるチャンバック小学校の再建のプロジェクトを計画しています。このプロジェクトは小学校再建だけにとどまらず、現地での保健教育・啓蒙教育、また今後日本において私達の活動やNGOをもっと多くの人に理解してもらえるように、教職員の方や一般の方にも参加していただけるような総合的な教育施設を創りたいと考えていました。



インド菓草園：ハーブ園で作業する現地スタッフ

また、当事国への医師・看護婦・インターン等の派遣の際、本部での研修を行います。その際皆様のお世話などをさせていただいています。

緊急救援の際には、調整員としてまだまだ力量不足ですが派遣される予定です。

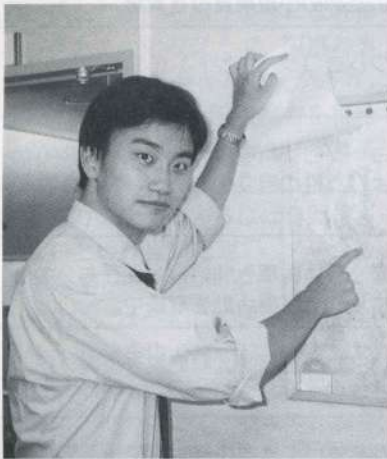
最後に私の抱負として、NGOと言うものは国籍はもちろん宗教・人種・価値観などの違いを超えて世界中の人々が安らかに楽しく生活できる為の道標であると考えます。よって、私自身常に初心を忘れず、色々な事を吸収し勉強し、微力ながらお役に立ちたいと思っています。

今後ともよろしくお願ひします。

国名	種別	プロジェクト	内容
コソボ自治州	医療・保健衛生	緊急医療活動 診療所再建 99.4～	コソボの帰還難民と被災民及び地域住民のための医療支援活動を実施。主に診療所の開設・修理、医療備品、必要な薬品の援助。

AMDA 新スタッフ紹介②

◇
上田 孝暢



うえだ たかのぶ。年齢 23 歳。

出身地 大阪府。

・ 経歴紹介

会員の皆様、はじめまして。2000 年 6 月初めより AMDA 本部にプログラムオフィサーとして勤務しております上田と申します。私の経歴を簡単に紹介いたします。大学では農学部に所属し、主に森林に関する国際開発を専攻しました。卒業論文は、ネパールのコミュニティ林業 (Community Forestry) をテーマに選び、ネパールに一ヶ月ほど滞在しました。その頃の発展途上国での知識や経験が AMDA で

の仕事に生かせればと思っております。大学卒業後は政府系特殊法人に就職し、1 年間働いた後、AMDA に就職しました。

・ 担当業務

現在担当させていただいている業務は大きく二つあります。一つは東ヨーロッパ、特にバルカン半島のプロジェクトの管理、もう一つは外務省からいただく補助金によって実施するプロジェクトの申請業務です。

前者について少しご説明いたします。現在 AMDA は旧ユーゴスラビアのコソボ自治州で活動しています。AMDA が 1999 年に実施したコソボ難民緊急救援活動のことをご存知の方も多いかと存じます (写真 1 参照)。旧ユーゴスラビアは 1998～99 年のコソボ紛争や 1999 年の NATO による空爆等、なかなか政情の安定が保たれない地です。住民の多くは家族を失い、また紛争によって生活基盤が破壊されたため、非常に厳しい生活を強いられています。現在コソボでは AMDA 駐在員の濱田祐子さんが精力的に活動されており、本部の私は現地の濱田さんと頻りに E メール等でやり取りしていま

す。写真 2 は現地の濱田さんから送られてきたもので、コソボのプリズレン病院での食品配給作業の様様です。本部での仕事はなかなか大変ですが、現地の濱田さんの方が何十倍も大変なので、本部の私も気合いを入れてがんばっています。その他、バルカン半島にはボスニア・ヘルツェゴビナに AMDA 支部があり、そこの調整業務も行っております。

後者の外務省からの補助金によるプロジェクトについてですが、私は数種類ある補助金のうち、「草の根無償資金協力」という補助金の申請業務を行っております。発展途上国で政府の医療サービスの手が及ばない村に病院を建設してプライマリ・ヘルス・ケアを実施したり、学校を修復して子供たちが安全に教育を受けられるような環境を提供するといったプロジェクトです。数年後、これらのプロジェクトで病院や学校ができた地域の住民の生活が改善されていることを期待しつつ仕事をしております。

AMDA 職員の先輩方やボランティアの方々には皆さん親切で、仕事のこと、また仕事以外のことでもいろいろ教えてくださり、非常に勉強になっています。私も早く周りの人々を助けられるような職員になれるようがんばっていきたくと思います。



写真 1 : 1999 年 4 月 AMDA コソボ難民緊急救援



写真 2 : プリズレン病院 幼児栄養食品の配給 (濱田祐子さん撮影)

国名	種別	プロジェクト	内容
ケニア	自立支援	ABCプロジェクト 97.9～	ナイロビ近郊スラム(キベラ地区)の女性たちに、職業訓練、衛生教育、自立のための小規模貸付を実施。
	保健衛生	HIVプロジェクト 99～	ケニア西部のニャンザ県にて、青年海外協力隊の連携のもと、エイズ教育を実施。
ザンビア	保健衛生	プライマリーヘルスケア 95.4～	首都ルサカでプライマリーヘルスケアプロジェクトをJICAと共同で調査から実施。
	自立支援	ABCプロジェクト 98.9～	首都ルサカ近郊スラム(ジョージコンパウンド)の女性たちに、職業訓練、衛生教育、自立のための小規模貸付を実施。
	自立支援	ABCプロジェクト 00～	首都ルサカ近郊スラム(パウレニコンパウンド)の女性たちに自立のための小規模貸付を実施。
	自立支援	コミュニティー農園 99.12～	首都ルサカ近郊スラム(ジョージコンパウンド)の女性が中心となって、住民の栄養改善および女性の自立のために、3haの農園を開墾。
ジブチ	医療	ソマリア難民救援医療 93.1～	ソマリア難民キャンプで、緊急救援医療を開始し、現在も2つのキャンプ(アリアデとホルホル)で医療活動を継続中。
	医療・保健衛生	産婦人科病院人材育成 93～	ジブチ市内にある機能していなかった産婦人科病院を復興、診療、助産婦のトレーニングを実施。
	医療	エリトリア難民救援医療 00.6～	北部オボック地方で、戦争から逃げてきたエリトリア難民緊急救援活動中。
ルワンダ	医療	避難民・帰還難民病院再建 予定	首都キガリ市で病院の再建、診療活動を行う。地域の医療向上のため、現地スタッフのトレーニングを実施。
	自立支援	ABCプロジェクト 97.11～	キガリ近郊の女性たちに職業訓練、衛生教育、自立のための小規模貸付を実施。



AMDA新スタッフ紹介③

◇ 谷合 正明

節寒いよなとか、ジブチにエリトリア難民が押し寄せているとか、そんなことをぼんやり考えながら仕事しています。

私がAMDAに来たのは、今年の1月ですからすでに半年以上が経ちました。それまで私は開発コンサルタントとして日本のODA(政府開発援助)の仕事に携わってきてましたから、同じ開発援助をするAMDAでの仕事には抵抗なく就くことができました。ODAの仕事とNGOの仕事の違いがあるとするれば、NGOはより現場に密着してい



コミュニティー農園

現在、私はAMDA本部でアフリカを担当しています。ケニア、ジブチ、ルワンダ、ザンビアから毎日のように、EメールやFax・Telでプロジェクトの報告、相談が届きます。学生時代に、論文の調査でアフリカのタンザニアに行ってきた、なぜかアフリカに係ることが多く、AMDA内でも、いつのまにかアフリカ全体を担当することになりました。私の頭の中には、アフリカの地図がインプットされ、ケニアは今ごろ昼食だよなとか、ザンビアはこの季

て、また現地の住民と直接触れ合っていて、仕事を進めることだと思います。机上の仕事より、フィールドワークが好きな私にとって、AMDAでの仕事はすごくやりがいがあります。実際、これまで草の根的なプロジェクトに多く携わってきました。今回はその中で、

AMDA 新スタッフ紹介④

◇ 田中 一弘



私は、大学時代にアジア諸国を旅行し、日本とは全く違う状況下で生活をしている人々を目の当たりにし、国際協力に関わりたいと思うようになりました。また、大学のゼミで、国連の方に直接お話をうかがえる機会があり、それが契機となって、国際協力を将来の道として真剣に考えるようになりました。

国際協力を仕事とするには専門性を身につけないといけないと思い、アメリカの大学院で国際開発学を専攻しました。大学院では、主にアジア諸国の経済開発と環境を中心に研究し、ゼミでは、開発プロジェクトのプランニングおよびグラントプロポーザルの作成を学びました。語学にも力を入れ、学部時代に履修していたフランス語を伸ばすためにフランスに語学研修に行きました。また、大学院でインドネシア語を学び、独学でベトナム語も勉強しました。

1999年の夏には、大学院の休みを利用し、ベトナム（ホーチミン）のUNICEF事務所および現地のNGOで

あるHo Chi Minh City Child Welfare Foundation (HCWF) にてインターンとして働きました。私の任務は、HCWFのストリートチルドレンに住居と教育を提供する施設のプロポーザルを作成することでした。大学院で得たプロポーザルライティングの技術を活かし、HCWFスタッフとの対話を重ねながら、このプロジェクトの趣旨を反映したプロポーザルを作成し、これをUNICEFに提出しました。2000年2月に、UNICEFからこのプロジェクトへの資金援助が決定しました。このとき、自分が行ったことに結果が出たということ以上に、現地の子どもたちに新しい生活を送るチャンスを与えられたことに喜びを感じました。

こうした経験で得られた知識や技術を最大限に活かせるのはAMDAであると考え、2000年の7月より、こちらで働かせていただくことになりました。現在は、アフリカ担当として、先輩方からのアドバイスをいただきながら、プロジェクトを調整していく業務を行っています。毎日、新しいことを学ぶことができるので、とても新鮮な



ザンビア自立支援 識字教育

気持ちで仕事ができます。また、海外との連絡が多く、英語が活かせるのも魅力です。それに加え、様々な場面で、会員の皆様のご支援によって活動できているということを実感し、それが仕事への大きなインセンティブになっています。

現在、アフリカでは、ジブチ、ケニア、ザンビアなどでプロジェクトを実施しており、それを本部からサポートしています。プロジェクトの成功には、現地と本部との緊密なコミュニケーションが不可欠だと思いますので、非常にやりがいを感じています。これからも、会員の皆様のご期待に応えられるよう、また、AMDAの理念に沿った国際貢献を実現できるよう、自分の力を最大限に活かしてがんばりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

現在ザンビアで行われている共同農園の事業について紹介したいと思います。

コミュニティ農園事業

私はことしの2月から3月にかけて、アフリカのザンビア共和国の首都ルサカで新たに始まったコミュニティ農園の調査に行ってきました。現在、AMDAでは、首都近郊のジョージコンバウンドという人口4万とも7万とも言われる地域で、JICA（国際協力事業団）と協力しながら、保健衛生教育、識字教育、裁縫訓練、マイクロクレジットのプロジェクトを行っています。こうした収入向上、保健衛生そして、教育を合わせた総合的事業をAMDAでは、ABC（AMDA Bank Complex）プロジェクトと呼びます。そして、本年から農園事業が加わりました。

AMDAのコミュニティ農園は、住民組織のメンバーに土地を分け与え、そ

の農園で収穫された農作物の半分を、農作業に参加した住民たちに食べるなり、売るなり自由に使ってもらい、収穫物の半分を地域にあるヘルスセンターにもっていき、栄養給食プログラムとして使ってもらいます。今年の4月から6月にかけて、第1回の収穫が終わり、そのとき取れた大豆を使って、ヘルスセンターで約30人の子供たちに給食のサービスができました。

現在、農園は3ヘクタールの大きさで、そこで現地の主食であるメイズ（とうもろこし）、大豆、落花生、サツマイモなどを栽培しています。何を栽培するのか、いつ、誰が種を植えるのか、収穫するのか、収穫物をどのように分配するのか等、住民組織の代表で結成された農園委員会の中で決めていきます。もちろんAMDAの農業専門家が適時アドバイスをしていることは言うまでもありません。

ザンビアは、雨季と乾季が明瞭に分かれており、11月から3月までが雨季、4月から10月が乾季で、乾季の間は、雨がまったく降りません。高原の国にあるザンビアは、平均気温が15度から20度くらいですので、もし乾季にも水があれば、乾季作が可能になり、3ヘクタールという限られた土地での生産性を高めることができます。そこで、AMDAはこの乾季にも野菜栽培などを可能にするため、灌水用の井戸を設置することにし、現在、工事が進められています。

この農園事業はまだ緒についたばかりですが、現地住民の協力を得ながら、来年にはさらに収穫を増やし、子供たちの栄養改善や住民の自立に貢献できる事業にしていくよう、AMDAザンビアのスタッフ共々ががんばっていきます。

国名	種別	プロジェクト	内容
ボリビア	人材育成	上級救命救急技能研修プログラム 98.4~	救命救急技能研修により、ボリビア人のインストラクター有資格医師の養成、及び被訓練医師の全国展開を目指す。
ホンジュラス	医療	巡回診療 99.8~00.7	ラ・セイバ、トロヘス、アルバレンで巡回診療を実施。
	保健衛生	衛生教育セミナー 99.8~	ラ・セイバ、トロヘスにて巡回診療と併せて衛生教育セミナーを実施。首都ラクシガルバ周辺スラム、ラモン・アマヤ、アマドールにおいて、衛生教育セミナー・住民とのミーティングで問題となった排水溝の設置など。

ホンジュラス便り

AMDA ホンジュラス駐在代表

前田あゆみ

日本は暑い日が続いているかと思いますが、みなさんいかがお過ごしですか？（これが発行されるのはもう秋めいている頃かもしれません）

2002年サッカーワールドカップに向けて北中米予選が始まっており、週末ごとに行われる試合の結果にホンジュラスの人は一喜一憂しています。私自身テレビ中継を見なくても近所から聞こえる歓声の調子でホンジュラスの勝敗が分かります。試合から一晩明けた朝には町のあちこちからサッカー談義をする声が聞こえてきます。AMDA看護婦スタッフも日曜日に出張先から戻る途中、サッカーの試合に間に合うかしらとしきりに時計を見ていました。ホンジュラスチームの成績はかなりよく、日本で試合をするのも夢ではありません。

今回はラモン・アマヤ・アマドール（以下RAA）で行っている収入向上プロジェクトの報告をしたいと思います。

RAAはテグシガルバ郊外に位置する人口5000人程度のスラム（周辺を含めると15000人程度）で、住民の大部分が低所得者層に属します（1ヶ月の収入は75ドル程度）。AMDAホンジュラスは昨年11月からRAAに関わり始め、現在は保健ボランティアの育成、コミュニティドラッグストア、収

入向上プロジェクト等を実施しています。

木の壁とトタン屋根で囲われた10帖ほどの空間に5人もしくはそれ以上の家族で住むのが典型的なRAA生活。スラムからバスで40分程度のセントロにあるマーケットに固定売り場を持っている人の中には少しずつ蓄財し



完成したドーナツと一緒に記念撮影

て煉瓦の家を建てる人もいますが、乳飲み子を抱えたシングルマザーが母親の魚の行商から得られる収入だけに頼っていたり、ガードマンの夫の収入（75ドル程度）のみで5人の家族を養っていたりという例もあります。

このようにスラムでは収入手段がきぎられており、少しでも収入源の幅が広がるようにと収入向上を目指した活動を今年の5月に開始しました。もともとは保健ボランティア育成のためのミーティングに集まった人からだされた、手仕事を習いたいという要望にこ

たえるために企画したものです。週に1回コミュニティセンターに集まり、現在までにぬいぐるみやコリータ（髪をしばる飾りゴム）といったものを作ってきました。参加者の大部分は女性ですが男性の参加者も一人います。彼は家々をまわって香辛料を売り歩くAmbulante（アンブランテ）と呼ばれる行商人で、レースのコリータを品物に入れようとはりきってま

す。7月3日から5日間はINPOP（国立職業訓練所）の講師を招いて、お菓子作りの講習会を開催しました。なぜお菓子かという、これも住民から出たアイデアですが、時間を問わず空いた時間に家で作ることができ、コミュニティ内外で売れるものだからです。コミュニティ内では、タコス、タマレス、トウモロコシのフライといったホンジュラス料理は何人かの女性が作っ

て売っているものの、お菓子はチョコバナナ、市販のチューロくらいしかありません。コミュニティで売れる物、作り方を覚えたい物を参加者と一緒に考え、ドーナツ、菓子パン、ケーキ、ピザを作ることにしました。

講習会にはスラム内に住む22名の女性が参加しました。初日はパン屋で数年働いていた経験を持つ講師のフレディが、衛生管理、使用材料、作り方をレクチャー形式で説明しました。2日目からは実際にお菓子作りの開始です。最初はドーナツ。まずはフレ

ディが実演した後、参加者がレシピを見ながら自分達で作ります。材料を計ってまぜて寝かしてドーナツ型にして油で揚げて砂糖をまぶして、ドーナツが100個近く出来上がりました。平等にわたるように各自4個ずつ持ち帰るようにならぬで合意したのですが、なぜか最後の3人には2個ずつしか残らず、翌日からは私が分配担当となり、一人ずつ名前を呼んで、個数を確認して渡していきました。食べ物の恨みは恐ろしいですから。

翌日はメディア・ジェマ(黄味が半分という意味)というホンジュラスの菓子パンとパースデーケーキを作りました。1日(それも午後のみ)に2種類のものを作ったのですが、参加者はもう前日のドーナツで手慣れており、手順をてきぱきとこなしていきました。9月10日の子供の日には、今まで

はセントロのパン屋で100レンピーラ(7ドル程度)で買っていたケーキがコミュニティ内でできることになるとうれしいものです。

最終日はピザで締めくくりです。参加者からはサラミのピザを作りたいという希望もあったのですが、ベジタリアンの私の独断でマッシュルームピザにしました。ドーナツといいピザといいアメリカ文化(ホンジュラスのファーストフードピザ屋はアメリカ資本)に毒されているのは悲しいことですが、それによって収入向上が望めるかもしれないという、皮肉な現実です。ピザは1切れ1.5ドル以上もする高価なもので、スラムの住民にはあこがれの食べ物であるのかも知れません(知り合い宅の使用人はハンバーガーをあげると家まで大事に持ちかえるそうです)。また、今回扱った食べ物は子

供の栄養改善には結びつきにくいものばかり。今後は栄養価の高い食べ物の講習会も考えていきたいと思っています。

材料費と完成個数から早速1個当たりの原価計算をしている人もいました。特にドーナツはオープンもかまどもいらぬので、手軽に出来ます。一人でも、このセミナーで学んだことを活かして収入を向上させて欲しいものです。そのためにAMDAとしても起業相談(おおげざなものではなく)にのるなどしてフォローアップをしていく予定です。向上させた収入を何に使うか、というのもまた問題です。妻が収入を得ることを快く思わぬ夫もいるでしょうし。これについては折をみて女性達と話していきなうと思っています。



AMDA 新スタッフ紹介⑤

◇
藤田真紀子

帰国後、合間をぬって神戸のNGOでボランティアをしながら一年間、民間企業で社会人としての経験を積んだ私は、兼ねてからの夢であったNGOへの転職を考え始めました。仕事をしながらの就職活動は時間的にかなり制限されていたので、インターネットを中心に活動をしていたところ、AMDAの求人情報を見つけ、早速応募をしたというわけです。それからは驚くほどスムーズに事が進み、現在に至ります。

数あるNGOのなかで、AMDAを選んだ理由は、医療の大切さに答えがあります。例えば教育、スポーツ、建設といったものも非常に大切なのですが、本当にぎりぎりの現場で必要とされているものは、まず食料と医療だと私は考えます。医療を中心に活動しているAMDAは、私の理想的なNGOの一つだったと言えるのです。

私のここAMDAでの担当は、JICAとAMDAが共同で行っている、研修プログラムです。このプログラムは五年計画で、今年三年目になります。アフリカ、東南アジア、南米など世界15カ国のNGOから研修生を招き入れ、九月初旬から約一ヶ月半、JICA中国国

際センターとAMDA本部で研修を進めていきます。

一年目は意思決定権がある現地スタッフを対象にレポートの書き方、プロジェクト運営の仕方などに重点をおき、二年目は経理関係、組織運営方法を、そして今年の三年目は現地職員やコミュニティをトレーニングしているスタッフを対象に、カリキュラムの作成方法、効率のよい指導方法などを中心に、研修をすすめていく予定になっています。

スケジュールには、AMDAでの講義のほかに、県内専門校の見学や、トレーニングビデオ作成のための山陽放送見学、そして名所観光なども盛り込まれており、研修生たちに日本の技術だけでなく、日本の文化も十分理解してもらえるようなものになっています。確かに15名の各国からの研修生をまとめていくのは大変ですが、いろいろな価値観に出会えて楽しいのではないかと、今から楽しみです。

NGOでは、判断力と経験がモノをいうと思います。私もこれからどんどん経験をつんで、情熱だけでなく、専門性も身につけ、いつか本格的にフィールドにも出たいと考えています。まだまだわからないことがたくさんあるので、ボランティアの方々にもご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

7月下旬よりここAMDAで勤務を始めた、藤田真紀子です。AMDA Journalを読んでいただいている方々には全てお会いしたいのですが、まだお目にかかれていない皆様にも、ここでの私の自己紹介とプロジェクト紹介で、私自身を伝えることができれば幸いです。

幼い頃に見た、生きることそのものが難しい地に住む、途上国の人々を映し出したテレビの映像は、いつまでも私の胸に焼き付いていました。自分が、何かしなくてはいけない、そう思ったのです。ただその頃は、それをかたちにするには、あまりにも漠然としすぎていました。

大学時代、交換留学生としてアメリカに留学することになった私は、当時在学していた外国語大学では学ぶことのできない、国際関係論を中心に授業をとり、そこでUNやWorld Bank、そしてNGOの役割を学ぶことになりました。そこから私は、本格的に国際協力という分野での仕事を希望するようになったのです。



AMDA新スタッフ紹介⑥

◇
高瀬かおり

皆さんこんにちは。7月17日付けでAMDAの職員となった高瀬かおりです。AMDAで働くようになるまで回りをしてきましたが、これからAMDAのメンバーとして様々な経験ができるのではないかと期待しています。

私は日本の大学を卒業する時には、漠然と人の役に立ちたいと思ってはいましたが、自分が何をしたいのかがわかっていませんでした。卒業後アメリカに語学留学し、そのままアメリカの大学院に進む決心をしました。

ワシントンDCにある大学の大学院では公共行政学を専攻しました。国際協力には興味を持つようになっていて、公的機関で働けるようにと選んだ専攻です。在学中はボランティアとして、HIV/AIDSの研究や患者のために資金集めをするイベントに参加したり、ベトナム難民の子供たちを対象にしたプロジェクトで活動したりしていました。

大学院卒業直前に訪れたメキシコでは、同国の持つ複雑な歴史や文化の背景にほんの少しとはいえ触れることができ、同時に自分の進みたい道がはっきりとわかったような気がします。同国では、アメリカからの資本や製品が進出し豊かさが享有されている一方、

多くの人は貧しいままで、夜の港にたむろするストリートチルドレンや、勝手に道路に縄張りを張って“駐車料金”を稼ぐ人々がいました。特に物乞いをする子供の姿を見ると胸が痛み悲しくて、世界中の子供たちが明日に希望を持てる生活を送れるようになる手助けになりたい、と思いながらメキシコを立ちました。

卒業後は日系企業で一年ほど働き、日本では是非NGOで働きたいと心に決め昨年10月に帰国しました。私は、途上国の子供が将来に希望を持つためには、まず健康であること、そして教育が必要だと考えています。その健康、つまり医療という分野で活躍するAMDAに興味を持ち、職員募集を知って応募し、現在に至っています。

AMDAでの私の仕事は、主にネットワークと活動資金の調達です。現在、AMDAは世界に27の支部を持っていますが、もっと支部を増やしていく計画です。同時に姉妹団体や名誉顧問も世界中に広げていく予定です。こうして世界中にAMDAのネットワークが広がることは、これからの活動の幅を広げることにつながり、また様々な団体との協力を通じてAMDAの組織力を高めていくことにもなります。私は、これから世界中の支部や姉妹団体と連絡をとったり、新しいネットワークを拡大する可能性を開拓してい

くこととなります。

活動資金の調達については、これからの資金調達活動のため今は準備を進めている段階です。日本のNGOは、欧米のNGOに比べて資金の基盤が弱いので、活動が制限されたり、優秀な人材を雇えないため組織としての能力を培い成長していくことが難しい状況に置かれています。

AMDAでは、皆様からの募金や、企業からの協力、そして外務省や国際機関からのプロジェクト資金など、さまざまな方法で活動資金を集めさせていただいております。その資金で世界中に展開されているプロジェクトを支えています。しかしながら、現在のAMDAでは、新しいプロジェクトを行う資金や実行する人材が不足しているため、挑戦してみたいと思うプロジェクトの提案があっても、それを受けることが困難な状況にあります。このようにしてAMDAの所有する専門知識と経験が、それらが必要とされる場所で役に立つチャンスを失ってしまうのは非常に残念なことです。

このような状況を打破するため、AMDAでは欧米のNGOのように強い資金基盤を構築していきたいと考えています。その手段として、これから国内外の財団や企業に助成金の申請を行っていく予定です。いわば、AMDAの営業活動を行っていくのが私の仕事です。

私はプロジェクトに直接関わってはいませんが、援助活動に間接的に貢献していきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお祈りします。

平成12年度 防災訓練参加

9月1日「防災の日」を中心に各地で防災訓練が行われます。AMDAも下記会場に於いて医療救護活動訓練に参加する予定です。

●9月1日(金) 静岡県西浜名湖総合防災訓練2000(湖西市会場)

*「自らの命は自らで守る 自らの地域は皆で守る」を基本理念として「守ろう命 救おう我がまち 育てよう防災の芽」をスローガンとした、陸路・海路・空路を駆使した救出・救助訓練及び広域応援訓練等、実践的な訓練を実施予定。

●9月3日(日) 平成12年東京都総合防災訓練(銀座・白鬚西・晴海会場)

*直轄医療救護班等編成訓練…被災地派遣に備え、直轄医療救護班を編成し派遣要請に備える。
*直轄医療救護班等参集訓練…派遣要請により搬送拠点となる病院等に参集する。
*医療救護所運営訓練…負傷者に対して、トリアージ班、応急処置班等任務分担による医療救護活動を行う。
*重症者等後方医療施設緊急搬送訓練…トリアージ結果に基づき、重篤者を車両により、後方医療施設へ搬送する。などの各訓練を会場別に実施予定。

人

9

AMDA インターナショナル名誉顧問紹介

Dr. Khan M. Zaman

AMDA インターナショナル事務局長

翻訳 高瀬かおり



H.E. Dr. Aung Naing
駐日ミャンマー連邦大使

H.E. Dr. Aung Naing は1999年12月に駐日ミャンマー連邦大使に就任。1947年生まれ。

略歴は下記の通り：

学歴

1970年 ヤンゴン医科大学卒業

職歴

1971年 国防局総合病院でインターン
1972年 政府局入局、ミャンマー陸軍医療部隊の医務官に任命
1973-74年 北シャン州ラシオ第一野戦軍病院にて医務官
1975-78年 ピンウールイン第1基地軍病院にて医務官
1979-80年 タウンゲー第3医療大隊分遣病院にて医務官
1981年 第1軍病院司令官代理に就任
1982年 第66軽歩兵師団 師団医務官に就任
1983-85年 第5陸軍大隊司令官代理に就任
1986-88年 シャン州バートゥ前衛基地軍病院司令官に就任
1989-91年 ミンガラドン国防局総合病院と国防局整形外科病院登記官（管理長官）に就任
1992-93年 マンダレー第1医療大隊司令官（中佐）に就任
1994年 国防省医療局重役会一等参謀に就任
1995-99年 国防省医療局重役会医療局長代理（大佐）に就任
1999年12月 駐日ミャンマー連邦大使に就任

受賞・叙勲等

H.E. Dr. Aung Naing は、20年以上にわたり多数の軍勲章を受賞しているほか、ショートノベルと応用科学でフィリピンの文学賞も受賞している。

AMDA インターナショナルは毎月AMDA の名誉顧問をお願いしている方々をシリーズで紹介している。今回はその第9回目として駐日ミャンマー連邦大使 H.E. Dr. Aung Naing と駐日フィリピン大使 H.E. Mr. Romeo A. Arguelles の二人の大使を紹介する。



H.E. Mr. Romeo A. Arguelles
駐日フィリピン大使

H.E. Mr. Romeo A. Arguelles は1999年に駐日フィリピン大使に就任。1934年生まれ。

略歴は下記の通り：

学歴

1955年 フィリピン大学法学部卒業
1971年 アメリカ合衆国・ピッツバーグ大学国際関係学修士号取得
1985年 アメリカ合衆国・リンカーン大学より名誉博士号取得

職歴

1965-73年 在東京フィリピン大使館商務官に就任
1974-75年 在ワシントンフィリピン大使館一等書記官に就任
1976-86年 駐サンフランシスコ総領事に就任
1988-92年 駐ペルー大使（ポリビア、コロンビア、エクアドル、ベネズエラ同時管轄）に就任
1992-94年 駐オランダ王国大使に就任
1994-96年 駐ニューヨーク総領事に就任
1996-99年 駐ドイツ連邦共和国大使に就任
1999年 駐日フィリピン大使に就任

受賞・叙勲等

1970年 フィリピン・カルチャラル・ヘリテージ賞 受賞
1992年 ペルー共和国政府よりエル・ソル・デル・ペルー（ペルーの太陽）賞 受賞

ボランティアフォーラムでパネリストに！

岡山県ボランティアセンターと社会福祉法人・岡山県社会福祉協議会が開催したボランティアフォーラム（7月29日）の「情報交換会」のプログラムにAMDA高校生会のメンバー3名がパネリストとして出演し高校生会の活動（カンボジア・チャンバック小学校再建支援）を報告しました。

情報交換会に先立ち基調講演としてルーテル学院大学の市川一宏教授の「ボランティア活動についての基礎知識と今後の広がり」と題した講演があり、続いて「ボランティア活動を通して新たな出会いを見つけませんか？ボランティアグループの組織化について考えよう」をテーマとした情報交換会が行われました。

パネリストとしてAMDA高校生会（高尾明子、三宅ちか子、川上佑希）の他、岡山市ボランティア協議会（福祉ガイドマップおかやまをつくる会）、総社市ボランティア連絡協議会、岡山NPOサポートネットワーク各代表者が出演し、コーディネーターである前出市川教授の司会のもと活動報告やボランティア活動とおしての意見が交換されました。各パネリストの所属するボランティア団体は目的も活動内容もそして会員数、会員平均年齢も異なった4団体でしたが、特に各パネリストからの意見としてボランティア活動層の広がり（特に若い世代）の必要性が述べられ、AMDA高校生会の活動は大変歓迎されました。若い人たちのパワーが今後のボランティア活動には必要で、新しい発想で活動内容を変化させることも今後活動を継続していくうえで重要ということでした。

またAMDA高校生会のメンバーが学校生活、部活動を行いながら、さらに社会参加をめざし、自分たちにできる活動をみつけ、活動をしていることに、ボランティア活動は「生きる力の創造」であると提唱する市川教授からも貴重な活動と評価されました。高校生会メンバー自身も学校で

学べないことがたくさん学べ、社会的にも、国際的にも視野が広がったと活動とおしての感想を述べました。

ボランティアフォーラム終了後にはたくさんの参加者のみなさんから激励の言葉とともに予想外の募金をいただき、カンボジアのチャンバック小学校再建にまた一歩近づきました。

今夏、AMDA高校生会はボランティアフォーラム以外にもテレビ、ラジオ番組に出演して活動を紹介しメン

バー募集を呼び掛けました。高校生会では一緒に活動する高校生を募集すると同時に同じようにボランティア活動を行っている同年代の人たちとの情報交換を行っていきたいと考えています。昨夏、自転車で広島市を訪れ、道々AMDA高校生会の活動を訴えたのもその一環の活動でしたが、結果、広島県福山市内の高校生もAMDA高校生会に参加することとなりました。

さらに多くの人たちと情報交換をしていく方法としてAMDA高校生会のホームページを再開（以前のメンバーが一時開いていました）したいとの希望があり



AMDA 高校生会が支援している チャンバック小学校とは

Dr. Sieng Rithy, AMDA カンボジア代表
翻訳 藤井倭文子



チャンバック小学校（屋根が曲がっています）

I. 地理的状況

チャンバック小学校はコンボンスプー州のプノム・スローチ地区にある Treng Traying コミュニティに所在し、プノンペン市から約86km、ハイウェイ4号線から300mの位置にある。この共同体には9つの村落があり、11,644人の住民（男性:5,482、女性:6,162）が住んでいる。約98%の住民は林業と農業に従事している。

II. 歴史

チャンバック小学校は内戦のため家族から離散し難民となった子供達を支援するために、1992年に人道援助機関により建設された。1993年に行なわれた選挙後、徐々に人々がこの地に家を建てはじめ、その結果この小学校への入学希望者が急激に増えた。

III. 現状

目下この小学校は Oudom Kiri パゴダ（寺院）の近くに位置し、約2,400平方メートルの敷地がある。ここに173人（男児:90、女児:73）の子供達が2つの教室で勉強している。ここには



ボランティアの連携について討議を繰り広げたフォーラム

新たな出会いはこちらが始まる
ボランティアフォーラム
が岡山市の障害者用トイレを点検し、本にした経験から「個人や一つのグループでは難しい資金問題がクリアでき、知らない分野の活動に触れられた」と指摘。赤阪会長は三十団体、六百三十一人の会員が話し合いを重ね、研修や災害援助をする活動を報告し、「団体の枠を超え、ボランティアの輪が広がれ

は、福祉の街づくりの力になる」とした。
AMDAの国際援助活動を支援し、カンボジアの小学校再建などに取り組むAMD A 高校生会の三人は「ともに活動する中で視野が広がり、いい出会いがあった」と強調。糸山理事は「ネットワークの参加団体は福祉だけでなく、国際交流や環境などさまざま。その違いこそが力になる」と、異分野の交流が多様な活動や資金源につながる」とした。
パネリストはボランティアの連携の重要性で一致。市川教授は「ボランティア活動はグループの出会いを通して、相違を知ることから始まる」と締めくくった。

ルーテル学院大学(東京)の市川一宏教授が「ボランティア活動についての基礎知識と今後の広がり」をテーマに基調講演。情報交換の場では、同教授をコーディネーターに、岡山市ボランティアグループ連絡協会の須藤正巳会長、総社市ボランティア連絡協会の赤阪恵美子会長、AMD A 高校生会の高尾明子さん、三宅ちか子さん、川上佑希君、岡山NPOサポートネットワークの糸山嘉彦理事が体験を話し合った。

団体の枠を超え出合いを

岡山フォーラムで連携の重要性確認

世代や分野を超えて広がるボランティア活動。岡山県社会福祉協議会主催のボランティアフォーラムがこのほど、県総合福祉会館(岡山市石関町)で開かれ、約300人がグループ間の連携について考えた。



者用トイレを点検し、本にした経験から「個人や一つのグループでは難しい資金問題がクリアでき、知らない分野の活動に触れられた」と指摘。赤阪会長は三十団体、六百三十一人の会員が話し合いを重ね、研修や災害援助をする活動を報告し、「団体の枠を超え、ボランティアの輪が広がれ

ましたが、AMDAのホームページも岡山理科大学学生や、会員(メロンズ)他によるホームページ作成ボランティアのみなさんの協力によるものという現状のため、高校生会のホームページ作成のサポートをすることができていませんでした。そんななか高校生会の放送を聞いた中学校のパソコン指導を担当する赤木良雄先生から、夏休み中にホームページを再開し、高校生会メンバーたちが作成できるよ

うに指導したいとの嬉しい申し出がありました。ただ今メンバーたちは勉強中ですが、再開できれば活動範囲も広がり、その活動も多面的な活動へと変わっていくのではないのでしょうか。

今後ともAMDA 高校生会の活動をご支援下さるとともに、よきアドバイスをいただけますようお願いいたします。

3人の教師がいるが、その中の1人はこの学校を支援するために臨時に雇われている教師である。この小学校は地域教育委員会と州政府教育委員会の監督下にある。

学校の時間割は午前(7時から11時)と午後(1時から5時)の2部にわかれている。生徒の大半はきわめて貧しく、又内戦による孤児も多い。今のところこの小学校は2クラス、2段階に分けられている。生徒数が多く教室が2部屋しかないために、子供達をきちんと組み分けするだけの収容力がない。そのため、様々な能力の子供達を同じクラスに入れるしか方法がない。

IV. 必要とする設備

1. 建物:

建物は非常に古く、倒壊寸前の状態である。木造建築で屋根はタイルで出来ている。今後この建物の崩壊により授業中の子供達が悲惨事に遭うかもしれないと私達は心配している。生徒数が増えているために、僧侶の家や木の下で授業を行なっている。又、この学校の運営は、特に雨季は大変である。

2. 備品:

机、椅子、黒板等が大変不足している。子供達は直接地面に座りながら授業を受けている。

3. その他の設備:

この小学校には水道や井戸、トイレ、集会室、図書館、体育館等施設が何一つない。殆ど全ての設備が必要だと強調したい。

4. 人的資源:

この学校の教師は子供達を教育するための知識が非常に乏しい。将来彼等の能力向上のためにより多くの研修やその他の学問が必要である。

どうぞご支援をお願い致します。



子どもたちは床で学習しています

1) 医療通訳養成講座報告

柘植 靖子

第10回医療通訳養成講座が、7月8日(土)小林国際クリニックで行われた。参加者は11名。講師は、横浜市瀬谷区の保健婦で、主に老人福祉の面で活躍されている、中沢由江さん。今回のテーマは、介護保険制度についてで、通訳でなくとも誰もが興味のある内容だった。高齢者のいる家庭では特に深刻で、参加者の中からさまざまな具体的な質問が多く出された。

まだ始まって間もない、疑問だらけのこの制度について、分かりやすい説明を聞くことができた。

「介護保険制度について」
～横浜市の場合～

1. 対象者

40歳以上の市民で、保険料は所得によって6段階に分けられる。

40～64歳の市民で、介護が必要となった場合、特定疾病によるものに限り、サービスが受けられる。

(特定疾病…痴呆、脳血管疾患、パーキンソン病等15種)

65歳以上の場合は、原因を問わずサービスが受けられる。

2. 要介護認定

申請書を提出

→ ケアマネージャーによる認定調査と主治医の意見書をもとに審査が行われる

→ 認定によって介護の必要度が6段階に分けられる

→ 結果を通知

→ 介護が必要な場合は、受けたいサービスを依頼し、介護のプランを決定する

ケアマネージャーとは…介護サービスを受けるまでの諸手続きを代行し、利用者の状態にあった介護プランを作成する。

希望に応じて施設の斡旋、サービスの調整など、継続的に支援していく。

に支援していく。

3. 受けられるサービスの内容

在宅サービス

- ・ 入浴、排泄、食事の介護。調理、洗濯、清掃等の世話。
- ・ 療養上の世話、リハビリテーション。
- ・ 通所介護、通所リハビリテーション。
- ・ 車椅子、特殊寝台、じょくそう予防用具等の貸与。
- ・ 短期入所生活介護、短期入所療養介護。
- ・ 医師、歯科医師、薬剤師等の訪問。
- ・ 痴呆対応型共同生活介護。特定施設入所者生活介護。
- ・ 入浴、排泄用の福祉用具購入費の支給。(10万円が限度)
- ・ 住宅改修費の支給。(20万円が限度)

2) ネパール AMDA 病院支援報告

AMDA 神奈川支部代表 小林 米幸

神奈川支部では昨年に引き続きネパール・ダマックのAMDAホスピタルの支援を行っておりますが、今年度は現地からの要請を考慮し、日本円で8万円相当の下記物品を寄贈することにいたしました。品物は現地で購入、使用は可及的すみやかに、目録の贈呈は12月に伊藤恵子会員が現地訪問時に行います。なおこの8万円は支部の医療通訳養成講座の開催やバザーなどで得た資金の一部です。医療通訳養成講座の受講生の皆様、養成講座を無料で引き受けてくださった講師の先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

ネプライザー	Rs. 6,200 x 2ヶ
マイクロピペット 20ml	Rs. 5,100 x 2ヶ
マイクロピペット 100ml ~ 1000ml	Rs. 10,100
吸引器：プトワールから譲渡 (支援不要)	
スチールドラム缶 3台	Rs. 1,450 x 3ヶ
電化オートクレーブ	Rs. 6,500
酸素ボンベキャリア	Rs. 1,500 x 4ヶ
以上合計：	Rs. 49,550

日本円にして約80,000円です。

AMDA 支援コンサート報告

8月3日(木) ママディ・ケイタ&セワカン スーパーライブ (於：中世夢が原)

アフリカン・パークッションの神様“ママディ・ケイタ”の熱狂的ステージに会場の皆も一体となってリズムをとったり、踊ったり、楽しい時を過ごすことができました。

8月5日(土) 友誼会総合病院創立20周年記念
AMDA支援のためのチャリティコンサート
(於：大阪 ザ・シンフォニーホール)

世界的ピアニスト中村絃子さん、指揮者 大友直人さんと大阪フィルハーモニー交響楽団によるまたとない支援コンサートは観客のみなさんを魅了しました。

どちらのコンサートも盛況のうちに終了しました。支援コンサートを開催して下さいました関係者の皆さまに心から感謝いたします。またたくさんのAMDAボランティアの皆さまが駆け付けてパネル展やバザーを手伝って下さいました。ありがとうございました。



事務局便り

夏休み期間中には特に多くの学校関係のみなさんが、小中学生は社会見学として、高校生、大学生は事務局でのボランティアを目的としてAMDAを訪問してくださいました。事務局スタッフもAMDAの活動をビデオや写真を交えて紹介したり、みなさんからの質問に答えたり、または事務局内の雑用を手伝っていただきながら、新しい出会いを楽しんでいます。みなさん、いつでもAMDA事務局にお立ち寄り下さい。お待ちしております。

可愛い写真と一緒にお便りが届きましたので紹介します。

「みんなしあわせになればいいな！」

岡山市立高島幼稚園 PTA

2000年7月17日(月) PM 2:00、園児、保護者、園長先生でAMDA事務局を訪問しました。一学期に集まった募金を寄付するためでした。

高島幼稚園には、遊戯室前の廊下にアムダコーナーが設けられています。向かい側には金魚や熱帯魚の水槽があり、園児のお気に入りの場所のひとつです。そこには、カンボジア・デイケアセンター(保育園)の子どもたちの写真や名簿が展示されています。また、100円玉1枚でどんなことができるかをイラストで子どもたちに解りやすく説明しています。毎土曜日には、募金箱を出して募金活動を行っています。

本年度で3年目になりますが、この活動を通して、子どもたちに学んで欲しいことがあります。世界にはさまざまな生活をしている子どもたちがいること、自分のささやかなお小遣いでも友達と助け合うことができることです。一人一人の子どもたちの心の中に、「みんなしあわせになれば



アジア	ネパール ミャンマー JICA フィリピン カンボジア ベトナム JICA ラオス	小田 梨恵 (インターン) 石垣 賀子 (インターン) 川口 淳 (インターン) 上住 純子 (看護婦) 若山由紀子 (医師) 藤川 美絵 (医学生) 鈴木 俊介 (プロジェクト推進局) 大森 佳世 (駐在代表) 前原 和美 (看護婦) 志賀 和靖 (インターン) 九里 武晃 (医師) 藤野 康之 (調整員) 小平 雄一 (国際業務局) 岩田 和子 (調整員)
ヨーロッパ	コソボ	濱田 祐子 (駐在副代表)
アフリカ	ケニア ジブチ ザンビア JICA ザンビア	林 信秀 (地域事務所代表) 石原 聡 (調整員) 曾我部秀子 (インターン) 伊藤まり子 (医師) 和田 崇 (インターン) 佐々木 諭 (調整員) 妹尾 美樹 (看護婦) 岡安 利治 (調整員)
中南米	ホンジュラス	前田あゆみ (駐在代表)

ばいいな！」という優しい気持ちが育ってくれることを期待して、この活動を続けていきたいと思っています。

防災の日を前にワンポイントレッスン

山陽放送のAMDAレポート(毎火曜日17:30～)8月8日放送分にAMDAの派遣医師として何度も緊急救援活動を行ってきた三宅和久医師(アスカ国際クリニック)が出演、台湾大地震緊急救援を中心に医療救援活動について話されました。また、災害に備えての行政側、民間側の対応等についても様々な提案をされました。いずれも世界の各地での救援活動を通しての経験に裏づけされたものでしたが、私たちの身近に日頃の備えとして「周りのものを利用してご飯くらいは炊けるようにしておきましょう！」との提案がありました。例えば台湾では食料支援は材料のみ、すぐにあちこちで炊き出しが始められたそうです。お弁当などは届かない、調理をするのは当然の如く被災者自身なのです。自分たちで炊いたあったかいご飯を食べれば衛生的にもいいし、何より元気が出てくるというわけです。

つまり災害に遭った際の私たちは被災者になりすぎる傾向にある。ただ支援を待つだけでなく、自分たちで率先して何かをしていこうとする意欲があるとならば、初期復旧作業にも大きな差が出てくるのだそうです。

みなさんはどんな状況でもご飯が炊けますか？

AMDA Journal に関するお問い合わせは、AMDA 会員情報局 TEL 086-284-8104 まで

*ご入会、会費、ご寄付、その他ご購入のための振込は、本誌綴じ込みの郵便振替用紙をご使用下さい。連絡欄に振込目的を明記して下さい。

*クレジットカード(全日信販のAMDAカード)での会費納入方法もあります。

AMDAカードについてのお問い合わせは、
全日信販株式会社 本社営業部 086-227-7161です。

AMDA ホームページ
<http://www.amda.or.jp>

元気印の  国司憲一郎と

笑顔いっぱいの森下真由美 

が健康についてあらゆる角度から考えます。

その他、ニュース・国内外の情報・ガーデニング・料理・ペット・運勢など気になる情報満載です。

毎週火曜日の「AMDAレポート」では、ゲストを迎え現地の様子や状況を報告。

盛りだくさんの内容で毎週月曜日から金曜日まで「元気」をお伝えします。





2000年9月1日発行 (毎月1日発行) VOL.23 No.9 1995年11月27日 第三種郵便物認可 定価600円
 〒701-1202 岡山市精華310-1 TEL086-284-7730 FAX086-284-8959

AMDAホームページ
<http://www.amda.or.jp>

あなたたちのちからを必要とする人たちがいます

AMDA募金箱を置いていただける方はご連絡下さい (TEL 086-284-7730)